

氏名	井 上 貴 雄		
学位(専攻分野)	博 士(医 学)		
学位授与番号	博 乙 第 2590 号		
学位授与の日付	平成 5 年 6 月 30 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)		
学位論文題目	大腿骨近位部骨密度の DEXA (Dual Energy X-ray Absorptiometry) 法による検討		
論文審査委員	教授 平木 祥夫	教授 折田 薫三	教授 村上 宅郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

Dual Energy X-ray Absorptiometry (DEXA) 装置を使用し、基礎的研究として系統解剖体より摘出した大腿骨近位部骨標本を用い、体厚の変動および測定肢位による骨密度 (Bone Mineral Density, BMD) の測定精度を検討し、また、臨床的研究として健常女性、大腿骨頸部骨折症例および大腿骨転子部骨折症例の大腿骨近位部の BMD を測定し、骨折症例における BMD について検討した。

基礎的研究における DEXA 装置の測定精度は、水および油厚を 28cm 以上とした時に著しい測定誤差を生じ、測定肢位では内旋位および屈曲位において測定誤差を生じた。以上のことより、高度肥満者 (測定部位の体厚が 28cm 以上) の測定に際しては、測定誤差が生じる可能性が高くなることが分かった。測定精度および再現性を高めるために、測定肢位を中間位または軽度外旋位とすることが良いと考えられた。

臨床的研究においては、健常女性の最大骨塩量は 20 才代で、50 才代以降で BMD は有意に減少していた。骨折症例の BMD は健常女性に比較し有意に低値であり、大腿骨転子部骨折症例の BMD が、大腿骨頸部骨折症例に比較し有意に低値であった。また、骨折症例の術後予後評価および痴呆症合併例について検討すると、予後不良例ほど BMD は低値であり、痴呆症の合併例では有意に低値であった。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は大腿骨近位部骨密度測定に関する基礎的ならびに臨床的研究であるが、従来十

分解明されていなかった体厚の変動および測定肢位による骨密度の測定精度，また，大腿骨近位部骨折症例における骨密度について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。